

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■82■

9月の4連休。引ッ

越し作業が一段落した私は、手伝いに来てくれていた妻と、見頃と聞いた孀恋村のキャベツ畑を見に行った。

一面のキャベツ畑とその匂いは庄巻で、周囲の山々や田代湖の景観、きれいな空気が、そよ風とともに私を包み込んだ。キャベツの収穫体験も可能とのこと、事前に予約しなかったことを後悔。さらに現地で買ったキャベツは、妻が東京の自宅で食し、非常にみずみずしかったとのこと。まさに五感で楽しめる体験だ。

その孀恋村が、地場産産を体験する観光プ

孀恋村のキャベツ

…とか書いた看板があるな」と思いつつ、それ以上考えず、妻も何も思わなかったよう

「妻に愛を叫ぶ専用叫び台」で叫ぶ方もいなかった(キャベチュー以外で叫ぶ方はどのくらいいるのだろうか)。

とセンスが、1世紀を超え、村おこしイベントにつながった事実は胸を打つ。

ラン作りに注力している

と知って、わが意を得たり、とうれしくなった。キャベツ畑の体験は、村内のさまざま

な日常が、村外の非日常

今思えば、これは幸運だった。今回調べて孀恋村が、その村名もあって愛妻家の聖地と

さ、愛妻の丘は「キャベチュー」、すなわち「キャベツ畑の中心

の由来は、日本武尊

1889(明治22)年発足の孀恋村の村名

「新婚当時の気持ちを思い出したいな」という方がいれば、キャベチューの映像をインターネットで検索し、ご覧になることをお勧め

村おこしに愛あり

2010年分。思いがけない夫の愛の言葉と、それに涙する妻の姿。単なる微笑まじさを超えた感動がそこにはあった。

常として、人々をひきつけ得ることを感じるに十分だった。最近注目のマイクロツーリズムにも格好の題材。成功をお祈りしています。

で妻に愛を叫ぶ」というイベントの会場だと知った。もしその時気付いていたら、「最近

が、海の神の怒りを鎮めるため投身した愛妻、弟橘姫を追慕し、鳥居峠で「ああ、わが妻よ、恋しい」と嘆いたという故事だ。命名

群馬県の皆さま、以後、どうぞよろしくお願いたします。

ところで私は、孀恋

村で「愛妻の丘」に駐車した。通りかか

観光客がいるのに気付いたからだ

「愛妻村」

1972年生

た名前だな」「愛妻



渡辺真吾(わたなべ・しんご)

まれ。岡山県出身。東京大経済学部卒、米ミシガン大で経済学博士号取得。95年に日本銀行入行後、大阪支店営業課長や金融研究所経済ファイナンス研究課長などを経て、2020年9月から現職。